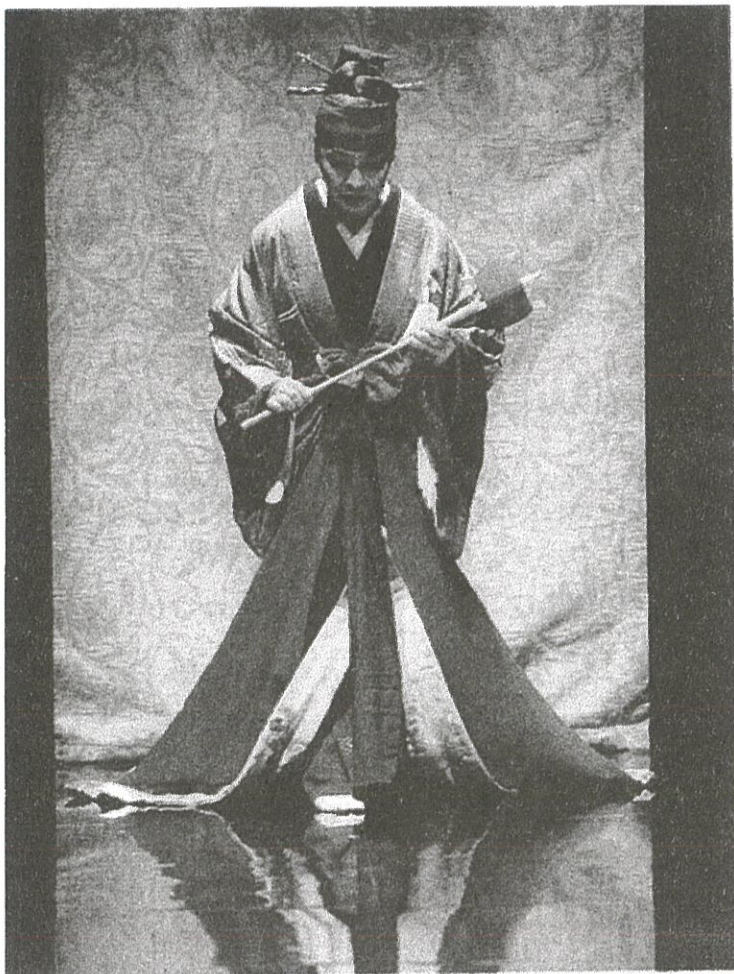


舞台芸術研究センター所長・渡邊守章を中心に、
写真や映像を交えながら舞台芸術の水脈をたぐる連続公開レクチャー。



写真：太田威重

■ 公開レクチャーシリーズ 後期第2回 ■

劇場の記憶

— 舞台芸術の半世紀 —

「《語り》の普遍性について — フランス古典主義悲劇の場合 —

講師

渡邊 守章
後藤 加代

2011年12月13日(火) 18:00開始

京都芸術劇場春秋座

(京都造形芸術大学内)

主としてラシーヌ悲劇『フェードル』を取り上げ、日本の伝統演劇の根幹にある「語り」を、現代の演劇作業に如何に取り返し、活性化させるかを探る。両氏による実演付き。

継母の継子への恋というモチーフがどのように日本の伝統芸能と交わるのか、自ら能の演出も手掛ける渡邊守章が解説。さらに実演では後藤加代がフェードルを、渡邊守章が女形を含む登場人物を語ります。1999年にはフランスのパリ国立シャイヨー宮劇場でも公演を果たした後藤加代の「語り」を目の当たりにする機会をお見逃しなく!!

■ご予約方法■ (参加無料/要事前申込)

下記まで【1. 氏名 2. 人数 3. 連絡先(電話番号・メールアドレス)】をお知らせください。ファックスでお申込みの場合は、裏面の申込書をご利用下さい。

メールでのお申し込みの際には件名を【公開レクチャー申し込み】とご記入ください。なお、京都芸術劇場のホームページからもお申し込み頂けます。

主催/お問合せ：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

tel : 075-791-8240 / fax : 075-791-9438 / mail : k-pac@kuad.kyoto-art.ac.jp

●渡邊 守章 (わたなべ もりあき)

1933年生れ。東京大学教授、放送大学副学長、パリ第三大学客員教授等を経て東京大学名誉教授、京都造形芸術大学教授、舞台芸術研究センター所長。専攻は仏文学・表象文化論。演出家。演劇企画「空中庭園」主宰。著書に『ポール・クローデル—劇的想像力の世界』、『虚構の身体』、『哲学の舞台』（フーコーとの共著）、『舞台芸術の現在』、等。訳書に、ラシーヌ『フェードル アンドロマック』『ブリタニキウス ベレニス』、フーコー『性の歴史—一知への意志』、クローデル『縞子の靴』（上・下、毎日出版文化賞、日本翻訳文化賞、小西財団日仏翻訳文学賞受賞）、バルト『ラシーヌ論』（読売文学賞受賞）等。演出作品に、ラシーヌ『悲劇フェードル』（芸術祭優秀作品賞）、クローデル『真昼に分かつ』、ミュッセ『ロレンザッチョ』、ジュネ『女中たち』（読売演劇賞）、泉鏡花『天守物語』等。能・狂言等の日本の伝統演劇にも詳しく、能ジャンクション『葵上』『當麻』を、またクローデルの詩による創作能『内濠十二景、あるいは《二重の影》』『薔薇の名—長谷寺の牡丹』を作・演出。フランス共和国芸術文化勲章、フランス共和国国家功労勲章。

●後藤 加代 (ごとう かよ)

演劇集団円における渡邊演出の実験的ラシーヌ悲劇で、その存在感と強度のある声と台詞によって、悲劇女優としての類稀な才能を認められる。ラシーヌ『バジャゼ』の後妃ロクサーヌ、『アンドロマック』のアンドロマック、『女王ベレニス』のベレニス（芸術祭優秀賞）。『悲劇フェードル』では、有史以来初めて、パリにおいて日本人による日本語のラシーヌ悲劇として高く評価され、1999年には、パリでリニューアル・ヴァージョンに出演。パルコ能ジャンクション2『當麻』で観世榮夫・野村武司（現萬齋）と共演。泉鏡花『天守物語』の富姫（後に「空中庭園」製作でパリ公演も）、シェークスピア『ハムレット』（野村武司主演）のガートルードなど。円を退団後は、『キャバレ』等のミュージカル、平幹二郎のシェークスピア連続上演に参加。2005年には、クローデル没後五十周年記念・渡邊演出「朗読オラトリオ『縞子の靴』」（全曲版）で、その健在振りをアピールした。

- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
- 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電車出町柳駅から
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの
ご来場はお断りします。

ファックス申込書 075-791-9438

お名前 (フリガナ)

ご同伴者数

名

メールアドレス

お電話番号